

有価証券戦略

～リスク・リターンを意識して、安定収益を維持します～

経済情勢・金融政策の変化に柔軟に対応できるポートフォリオを構築します。

基本方針

長年有価証券運用に注力し、人材育成やリスク管理などの体制を整備してきました。

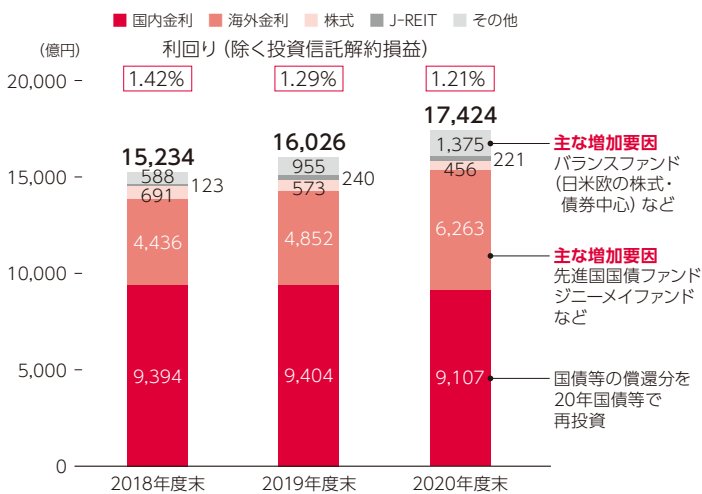
近年は低金利環境が継続していることから、円債を中心としつつも外国債券や株式・投資信託など運用の多様化を図ることと、安定収益の確保を目指しています。中期経営計画の期間を通じて現状と同水準の収益を確保していく方針です。

2020年度実績

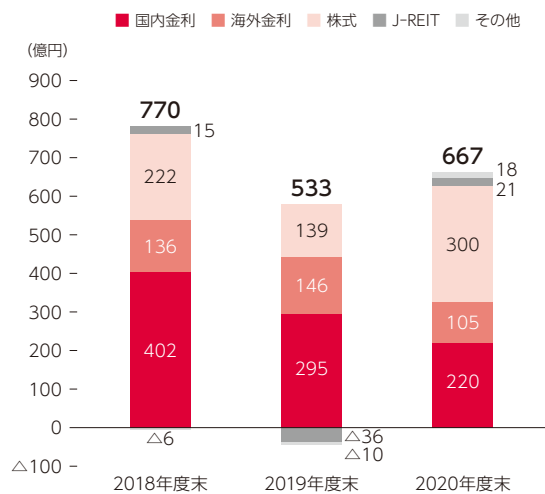
運用の多様化を図りながら残高を積み増したことで、2020年度末の有価証券残高(リスクベース)は前期比1,398億円増加し1兆7,424億円となりました。円債は比較的利回りの高い国債が償還する中、20年国債を中心に再投資を行ったほか、先進国国債等で運用するファンドなどにも投資することで収益を補いました。

有価証券の評価損益は、2020年度末は667億円となりました。

■ 有価証券残高・利回り(リスクベース)



■ 有価証券の評価損益



重点施策

金利リスクの分散

低金利環境が継続する中、日本国債を中心とした運用から、外国債券や投資信託などへ運用の幅を広げています。

バランス運用の拡大

運用実績を精査のうえ、良好なファンドに追加投資をしています。

株式等の機動的売買

相場の見通しを基にして、機動的にアロケーションを調整しています。

ファンドの活用

定期的なリバランスを必要とする戦略におけるファンドの活用や、国内籍追加型・単位型、外国籍などの投資目的に応じたファンド形式を選択しています。

市場リスク管理の高度化

海外金利商品の比率が高まっていることから、欧州および米国金利の予兆管理に注力しているほか、評価損益の変動等により、評価損が一定水準になった場合、対応策を検討するスキームを導入するなど、リスク管理の高度化を図っています。